

令和 6 年度事業実績

I 事業の目的

関係機関・団体、農薬メーカー等と密接な連携を図りながら、農薬の安全・適正使用の推進及び効率的な病虫害防除の推進をはじめ、新規登録・適用拡大農薬の普及性の実証、農産物の安全性を確保するGAPの推進などの各種事業に取り組むことにより、安全で商品性の高い農産物の安定供給と生産性の向上を図る。

II 実施事業の概要

1 植物防疫啓発事業

病虫害防除に関わる関係法令を遵守し、農産物への農薬残留事故の回避及び農薬による環境汚染の防止を図り、農薬の安全で適正な使用による安定した農業生産及び生産環境を維持することを目的として、農薬管理指導士、防除業者、農薬販売業者及びJA・関係団体の指導員等を対象にした各種研修会を開催するなど啓発活動を実施した。

また、病虫害発生が多様化と難防除病虫害の増加に対応した効率的な防除と安全な農薬使用を推進するため、発生予察情報を迅速で適切に提供するとともに、最新の防除技術及び農薬安全使用などに関する資料を作成し、的確な広報活動に取り組んだ。

主な実施項目

(1) 農薬管理指導士認定更新研修の開催

対象者：農薬管理指導士

研修会の内容：

- ①農薬の安全使用と危害防止対策について（(公社)緑の安全推進協会）
- ②病虫害防除対策の基礎について（県総合農試専門技術センター）
- ③毒物及び劇物取締法について（県中央、都城、延岡保健所）

表 1 開催概要

開催日	開催場所	参加者数
11月19日	三股町（町立文化会館ホール）	96名
11月20日	延岡市（市中小企業振興センター）	24名
11月21日	宮崎市（佐土原総合文化センター）	167名
合 計		287名

(2) 宮崎県農薬管理指導士新規養成研修の開催

開催日：令和7年1月8日

場 所：宮崎市 総合農業試験場研修棟

対象者：農薬取扱者（JA、農薬販売店等）、防除業者、ゴルフ場職員等
結果等：84名が研修を受講し認定試験を受験。うち80名が認定された。

研修講義内容：

- ① 関連法令（毒物及び劇物取締法）（県薬務対策課）
- ② 植物防疫一般・関連法令（植物防疫、農薬行政、農薬取締法）
（県農業普及技術課）
- ③ 農薬一般（農薬の種類、特性等）（県総合農試生物環境部）
- ④ 農薬の安全性評価及び各種基準
（県総合農試病虫害防除・肥料検査課）
- ⑤ 雑草防除（県総合農試作物部）
- ⑥ 病虫害防除（県総合農試専門技術センター）
- ⑦ 農薬の安全使用、危被害防止対策等（県農業普及技術課）
- ⑧ 農薬管理指導士の任務（県農業普及技術課）

(3) 植物防疫研修会の開催

開催日：令和6年7月18日

場 所：宮崎市 宮崎県総合農業試験場研修棟

県内各地 地域農業改良普及センター（リモート）

対象者：JA、県経済連、県農業共済組合、県農薬卸組合、
県農薬小売商組合、農薬メーカー、行政機関等 計132名出席

研修内容

- ① 演題：農薬事故の原因やドローン等スマート農機の利活用を踏まえた農薬使用の留意点とその適正使用について
講師：シンジェンタジャパン株式会社
※(公社)緑の安全推進協会派遣講師
- ② 演題：宮崎県におけるトマトキバガの発生消長
講師：宮崎県総合農業試験場病虫害防除・肥料検査課担当
- ③ 演題：宮崎県で採集されたトマトキバガ個体群の薬剤感受性
講師：宮崎県総合農業試験場生物環境部担当
- ④ 演題：サツマイモ基腐病の発病時期および発病部位が塊根腐敗に及ぼす影響
講師：宮崎県総合農業試験場病虫害防除・肥料検査課担当
- ⑤ 演題：サツマイモ基腐病防除対策技術情報について
講師：宮崎県総合農業試験場生物環境部担当
- ⑥ 演題：近年問題となっている病虫害の発生動向
講師：宮崎県総合農業試験場病虫害防除・肥料検査課担当

(4) 病虫害発生予察情報の印刷・配付

発生予察情報	計 29回 (2, 720部)
内訳 予報	12回
警報	0回
注意報	6回
特殊報	2回
防除情報	9回

(5) 農薬適正・安全対策資料及び防除対策資料の作成・配付

- ① 農薬適正・安全対策資料 815部
(植物防疫研修会資料、農薬管理指導士更新研修資料)
- ② 農薬安全・適正使用啓発資料
チラシ「農薬は適正に使用し、事故を未然に防ぎましょう」
10,000部
- ③ 令和7年版病虫害・雑草防除等指導指針 ホームページ掲載
- ④ 令和5年度農薬展示ほ成績書 100部

2 農薬展示ほ設置事業

病虫害・雑草防除等指導指針や地域の防除暦策定の資料とするため、西臼杵支庁・農林振興局(農業改良普及センター)等関係機関の協力を得て、新たに登録あるいは適用が拡大された農薬を中心に展示ほを設置し、防除効果等の検討を行った。

(1) 農薬展示ほ設置及び検討会の開催実績

表2 農薬展示ほ設置実績 ()は令和5年度

部 門	病虫害展示ほ数	除草剤展示ほ数 (生育調整剤含む)	合 計
水 稻 等	10 (8)	23 (23)	33 (31)
茶	0 (2)	0 (0)	0 (2)
野 菜	45 (29)	0 (0)	45 (29)
花 き	7 (5)	0 (0)	7 (5)
果 樹	10 (21)	0 (0)	10 (21)
飼 料 稻 等	3 (4)	3 (2)	6 (6)
合 計	75 (69)	26 (25)	101 (94)

表3 展示ほ検討会の開催実績

部 門	成績検討会	設置検討会	合計
水 稻 等	2 回	1 回	3 回
野 菜	1	1	2
花 き	1	1	2
果 樹	1	1	2
飼 料 稻 等	2	1	3
合 計	7 回	5 回	12 回

表4 令和7年版「宮崎県病害虫・雑草防除等指導指針」採用農薬数

部 門	殺虫・殺菌剤	除草剤
水 稲	4	5
かんしょ	9	
野 菜	3 5	
花 き	5	
果 樹	1 6	
飼料用イネ		2
飼料用とうもろこし	1	
合 計	7 0	7

(2) 農薬展示は事故対策補てん事業

農薬展示は設置によって発生した事故に係る損害の補てんを行うための事業である。

事故の発生はなく、補てん金支払はなかった。

3 G A P 推進事業

G A P 指導員の育成や「ひなたG A P」認証制度の運営を通して、食の安全・環境保全・労働安全に取り組むとともに、認証取得経営体（個人・団体・法人）に対する更新審査などを実施した。

また、平成7年度より開始される「M I Y A Z A K I - G A P」への移行についての説明を随時行った。

(1) 研修実績

項 目	回 数	参加人数
GAPによる経営改善研修	1	1 3
J GAP指導員育成研修	2	1 5
M I Y A Z A K I - G A P 審査員育成研修	1	1 0
宮崎県GAPシンポジウム	1	3 4

(2) 「ひなたG A P」の現地審査、判断審査会、認証書発行

① 「ひなたG A P」現地審査

宮崎市、都城市、延岡市、日向市、日南市、都農町、高鍋町、高原町、三股町、綾町の農業者及び団体を対象に17ヶ所を実施

② 判定審査会の開催

5月（4件）、8月（6件）、11月（3件）、3月（7件）の実施

③ 認証書の発行事務

初回審査（2件）、更新審査（17件）、構成員追加審査（1件）について認証書を発行

(3) 「ひなたG A P」認証取得経営体数

61経営体（令和6年度末、対前年度比34経営体の減）